

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 市民スポーツ活動の充実

基本事業 スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業名 **体育施設開放事業 (学校プール開放)**

[0499]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 開放校及びその周辺地区の児童 生徒及びその保護者</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 学校プールを夏季休業期間中、業者委託により開放・管理する。プールの水質管理のほか、開放校毎に開放時間中2名のプール監視員を配置し、原則、月曜と水曜を休場日としている。午前10時から正午までと午後1時から午後3時30分まで開放している。</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 学校プールを夏季休業期間中開放し、水泳に親しむ機会を提供することで、小中学生の体力・健康増進を図る。また、土日曜日も開放することで、水泳を通じて子供と保護者のふれあいも深めるねらいがある。</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	開放校区の児童 生徒 (中学生) 数	人	11,203	10,814	10,552	10,674
対象指標2						
活動指標1	開放校数	校	17	17	17	17
活動指標2	開放日数	日	16	16	17	14
成果指標1	利用者数	人	10,268	14,262	11,752	12,700
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	3,950	4,002	3,942	4,155
正職員人件費 (B)		千円	837	1,254	1,660	1,666
総事業費 (A) + (B)		千円	4,787	5,256	5,602	5,821

費用内訳	
21年度	需用費 319千円、委託料 3,623千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始 背景		事業を 取り巻く 環境変化	
------------	--	---------------------	--

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
妥当である  
妥当性が低い

理由  
・  
根拠は？

身近にある学校プールを開放することで、手軽に水に親しむことができ、子供の水に対する恐怖心をなくすとともに、健康づくりにもつながることから、妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
貢献度ふつう  
貢献度小さい  
基礎的事務事業

理由  
・  
根拠は？

子供のころから水に親しむことで、水に対する恐怖心をなくし、水泳への関心が高まるとともに、水を利用した運動で、利用者の健康の維持・増進が図られることから、貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

あがっている  
どちらかといえばあがっている  
あがらない

理由  
・  
根拠は？

天候によって利用者数は増減するが、毎年一定の利用者数を維持している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
成果向上余地 中  
成果向上余地 小・なし

理由  
・  
根拠は？

当事業の周知は、広報や市ホームページで市民に知らせるほか、開放校の学校だよりなどで児童に知らせており、天候が安定していれば利用者の増が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある  
ない

理由  
・  
根拠は？

プールは、安全管理や水質管理など、減らしたり効率化できない部分があることから削減は難しく、利用者の安全性の確保のため、逆にコストをかける必要がある。